通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

ログインID　※必須	
パスワード　※必須	

ログイン

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

以下のURLは、サンプルイメージです。そのままコピーできませんので、「一時保存」を押して出てきた個別のURLをコピー＆ペーストしてください。

ご回答いただいたデータを一時保存しました。

ご注意ください

・回答を再開する場合は、下記の再開URLにアクセスしてください。
※再開URLがわからなくなった場合、保存したデータからの再開はできません。
再開URLはメールで送信するかメモ帳などにコピーし、必ずお控えください。
※ログインページがある場合は、ログイン画面からも再開できます。
・回答の一時保存期限を過ぎると、回答内容が消去されます。

再開用URL	https://www14.webcas.net/form/pub/sei37/gakko202611?rid=aLurQ%2FgfP5REBtW8pw98fdGvESRZzRQOmZHxDoC%2BbwU%3D
回答の一時保存期限	2026年11月09日 16時30分

戻る

次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

管理職（校長・副校長・教頭）にご回答いただくにあたってのお願い

日頃より、国立特別支援教育総合研究所の研究活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本書は、通常の学校票をWebアンケートフォームで回答する方法をまとめたものです。
本調査への参加は任意です。回答しない場合にも、不利益はありません。

記

1　回答をお願いする方

学校から特別支援教育コーディネーター票の回答者とは別の、管理職（校長・副校長・教頭）で回答案内を受けた方にお願いします。回答者の選定方法は、学校長用の【資料2-5】「調査回答者の選定方法について」に示しています。管理職個人の努力や力量を評価する調査ではありません。

2　回答期間・所要時間

回答期間は令和8年10月26日から11月30日までです。所要時間は約30分です。

3　回答前に準備するもの

・学校票の回答用URL又はQRコード
・封筒の宛名部分に記載された学校コード
・御自身で決める任意の４桁数字

4　回答の手順

(1) 学校票のURLを開くか、QRコードを読み取ります。
(2) 学校コード〔必須〕（封筒の宛名右上部分に記載）を入力します。
　学校コードは、調査書類をお送りした封筒の宛名ラベル右上に、「SC」に続けて記載されている半角英数字5文字です（例：S0001、C0001）。入力する際は、「SC」や括弧・コロンを含めず、5文字のコードのみを入力してください。同じ学校で回答する場合は、学校票・コーディネーター票・担任票のいずれも、同じ学校コードを使用します。封筒がお手元にない場合は、校内で調査書類を取りまとめている方にご確認ください。
　　【例】宛名ラベルの表示（SC：C0001）の場合、入力する学校コード：C0001　となります。
　　※小学校はSから始まる５文字、中学校はCから始まる５文字となります。
(3) 説明を読み、回答へ協力する場合は「協力し、学校票に回答する」を選びます。
(4) 質問に回答し、内容を確認して送信します。

5　回答時のお願い
・学校として協力している場合でも、御本人の回答は任意です。
・学校の状況について管理職（校長・副校長・教頭）の方が回答してください。
・自由記述以外の項目は、必須回答となっておりますので、回答しないと先に進めません。
・回答中に時間の確保が難しくなった場合や負担を感じた場合は、途中で回答をやめることができます。
・自由記述には、学校名、氏名など、個人や学校が分かる情報を書かないでください。
・学校名と学校コードの対応表は、回答データとは別に保管します。

6　回答後に参加を取りやめる場合
令和8年12月18日（金）までに撤回用Webフォームから申し出てください。該当する学校票だけを分析対象から除外します。

撤回用Webフォーム：https://forms.cloud.microsoft/r/gFQ9tCsK2s

【お問合せ先】
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター　総括研究員　横尾　俊（研究副代表者）
〒239-8585　神奈川県横須賀市野比5-1-1
電話　046-839-6866（直通）
電子メール　v-regular_inquiry@nise.go.jp

このアンケートは途中回答保存機能がございます。
以下の再開用URLと記載のある右側のURLをメモ帳にコピー＆ペーストして保管して下さい。
途中回答保存期間は、**１週間**（１６８時間）です。

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

学校票　協力同意

封筒ラベルに記載のある５桁の学校コードを半角英数字５文字で入力してください。　※必須	
本調査に協力し、学校票に回答しますか。　※必須	◯ 協力し、学校票に回答する ◯ 協力しない

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

学校票

任意の４桁の番号を入れて下さい。
※ 必須

【調査の目的】

本調査は、通常の学級における個に応じた指導・支援の状況を把握し、学校での実践や校内支援体制づくりに役立つ知見として整理することを目的としています。
具体的には、学級で見られる児童生徒の学びの状態、担任が行っている指導・支援、校内での相談・情報共有、学校としての方針や支援体制等について把握します。
特に、以下の観点に着目して関連を整理します。

① 児童生徒の学びの状態と日常の指導・支援
② 担任の指導・支援と校内での相談・情報共有
③ 学校としての方針・支援体制と、特別支援教育コーディネーターによる相談・調整や担任の受け止め

また、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職等の異なる立場から同じ学校の支援の状況を把握するため、学校票・コーディネーター票・担任票の３種類の調査票を用います。１校当たり、学校票１名、コーディネーター票１名、担任票２名の計４名にご回答いただき、学校としての方針や支援体制、校内での相談・調整、日常の指導・支援がどのように関係しているかを検討します。
個々の学校や教員を順位づけたり判定したりするものではありません。回答は研究目的に限って使用し、個人や学校が特定される形で公表しません。

この調査に正解・不正解はありません。自由記述以外の項目は、すべて御回答いただかないと送信できません。回答者ご自身が把握している範囲で、今年度の状況に最も近い回答を選んでください。

【回答方法】

各設問に示す選択肢に沿ってご回答ください。

戻る　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

A　学校の状況について
回答者ご自身の立場と経験についてお答えください。

S-A-01　回答者のお立場　※必須

- ○ 校長
- ○ 副校長・教頭
- ○ 主幹教諭
- ○ その他

S-A-01a　現在の校長がこれまでに経験した特別支援教育に関する担当（校長本人に確認してお答えください。複数回答可）　※必須

- ☐ 特別支援学校での勤務
- ☐ 特別支援学級の担任・担当
- ☐ 通級による指導の担当
- ☐ 特別支援教育コーディネーター
- ☐ 教育委員会等での特別支援教育担当
- ☐ その他の特別支援教育に関する担当
- ☐ 上記の担当経験なし

S-A-01b　上記の担当経験の通算年数（S-A-01aで担当経験がある場合。同じ年度に複数の担当を経験しても1年として数える）　※必須

- ○ 5年以内
- ○ 6～10年
- ○ 11～15年
- ○ 16～20年
- ○ 21年以上

S-A-02　学校種　※必須

- ○ 小学校
- ○ 中学校
- ○ 義務教育学校
- ○ その他

S-A-03　学校規模（児童生徒数）　※必須

- ○ 100人未満
- ○ 100～299人
- ○ 300～599人
- ○ 600人以上

S-A-04　通常の学級数　※必須	◯ 5学級以下 ◯ 6～11学級 ◯ 12～17学級 ◯ 18学級以上
S-A-05　特別支援学級の設置状況 ※必須	◯ 設置あり ◯ 設置なし
S-A-06　通級指導教室の設置状況 （東京都の特別支援教室を含む） ※必須	◯ 自校に設置あり ◯ 自校に設置なし
S-A-07　自校の通常の学級に在籍する児童生徒の通級による指導の利用状況　※必須	◯ 自校通級のみ ◯ 他校通級のみ ◯ 自校・他校の両方 ◯ 巡回指導 ◯ 利用者なし
S-A-08　学校票回答者と特別支援教育コーディネーター票回答者は同一人物ですか。※選定された方についてお答えください。同一人物の場合は、回答前に校内で選定を調整してください。　※必須	◯ 同一ではない ◯ 同一である。
S-A-09　今年度、小学校５・６年又は義務教育学校前期課程の該当学年で実施している指導体制（複数回答可） ※『該当学年なし』は、他の選択肢と同時に選ばないでください。 ※必須	☐ 学級担任を中心とする体制 ☐ 教科担任制・専科指導 ☐ 学年担任制・チーム担任制 ☐ その他 ☐ 該当学年なし

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

B　学校としての方針・校内支援体制

今年度の学校全体としての方針・校内支援体制についてお答えください。
※ 必須

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
S-B-01　学校として、通常の学級における個に応じた指導・支援に関する方針を共有している。	○	○	○	○	○
S-B-02　通常の学級での支援を、担任個人だけに任せない体制づくりを進めている。	○	○	○	○	○
S-B-03　管理職が、通常の学級担任が感じている困難や支援ニーズを把握する機会がある。	○	○	○	○	○
S-B-04　特別支援教育コーディネーターの役割が校内で共有されている。	○	○	○	○	○
S-B-05　校内委員会等で、通常の学級の支援について継続的に検討している。	○	○	○	○	○

S-B-06　学年会や教科会等で、支援が必要な児童生徒への関わり方を共有している。	○	○	○	○	○
S-B-07　校内研修で、通常の学級における支援を扱う機会がある。	○	○	○	○	○
S-B-08　支援内容を、関係する教職員と共有できるようにしている。	○	○	○	○	○
S-B-09　必要な場合に、外部専門家や関係機関との連携が実際に行われている。	○	○	○	○	○
S-B-10　支援の状況を踏まえて、学校として授業や学級経営を支える方策を検討している。	○	○	○	○	○

戻る　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

C　校内での検討・研修・連携の頻度

今年度、校内での検討・研修・連携を実際に行った頻度についてお答えください。
「必要な場面なし」と、0「必要な場面はあったが実施していない」を区別してください。
1＝年1～数回程度、2＝月1回程度、3＝月2～3回程度、4＝週1回以上です。　※必須

	必要な場面なし	必要な場面はあったが実施していない	年1～数回程度	月1回程度	月2～3回程度	週1回以上
S-C-01　校内委員会等で、通常の学級における支援について扱う機会	○	○	○	○	○	○
S-C-02　通常の学級の支援に関する校内研修や情報提供の機会	○	○	○	○	○	○
S-C-03　管理職、コーディネーター、担任等で支援方針を確認する機会	○	○	○	○	○	○
S-C-04　外部専門家、特別支援学校のセンター的機能や関係機関と連携する機会	○	○	○	○	○	○

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

D 学校として感じる課題

今年度、学校全体として通常の学級を支える際に感じている課題についてお答えください。　※必須

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
S-D-01　通常の学級での支援を担任個人に任せがちになる。	○	○	○	○	○
S-D-02　支援が必要な児童生徒に関する情報を、関係する教職員で共有することが難しい。	○	○	○	○	○
S-D-03　校内で相談や検討を行う時間を確保することが難しい。	○	○	○	○	○
S-D-04　学校規模や指導体制など、本校の条件に応じた支援体制を整えることが難しい。	○	○	○	○	○
S-D-05　専門家や関係機関との連携から得た助言や情報を、日常の実践に生かすことが難しい。	○	○	○	○	○
S-D-06　通常の学級の担任を支える研修や情報を十分に用意することが難しい。	○	○	○	○	○

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

E　今後必要だと考える支援・情報

今年度の学校全体の状況を踏まえ、今後必要だと考える支援・情報をすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。　※必須

- [ ] 通常の学級での支援に関する研修資料
- [ ] 管理職向けの体制づくりに関する情報
- [ ] 特別支援教育コーディネーターの役割整理
- [ ] 担任が相談しやすい校内体制づくりの事例
- [ ] 小規模校や中学校での支援体制に関する情報
- [ ] 外部専門家や関係機関との連携方法
- [ ] その他
- [ ] 現時点では特にない

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

以下は、合理的配慮に関する周辺情報を確認するもので、法令上の対応の適否や、学校の取組が十分かどうかを判断するものではありません。また、合理的配慮全体又は基礎的環境整備全体を網羅的に測定するものではありません。
合理的配慮は、個別の状況に応じて検討される変更・調整です。個別の合理的配慮の検討・提供過程と、それを支える学校全体の環境・資源を区別してお答えください。

S-F-00　今年度、通常の学級に在籍する児童生徒について、本人・保護者からの相談・申出又は学校からの提案を踏まえ、合理的配慮を検討した事例についてお答えください。　※必須

- ◯ 合理的配慮を検討し、提供した事例があった
- ◯ 合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった
- ◯ 合理的配慮を検討した事例はなかった

戻る　　次へ

一時保存

■ S-F-00「合理的配慮を検討し、提供した事例があった」を選択した場合

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

S-F-00 で「合理的配慮を検討し、提供した事例があった」を選んだ学校は S-F-01・02・03 にお答えください。複数の事例がある場合は、今年度の事例全体を通じた学校としての状況に最も近い回答を選んでください。回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ある程度あてはまる　5 よくあてはまる　※ 必須

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
S-F-01　本人・保護者との対話を通じ、児童生徒の状況や意向を踏まえて合理的配慮内容を検討している。	○	○	○	○	○
S-F-02　検討・確認した合理的配慮内容、実施場面、関係教職員の役割を共有し、必要に応じて個別の教育支援計画・個別の指導計画等に記録している。	○	○	○	○	○
S-F-03　合理的配慮について、児童生徒の状況や意向を踏まえて適宜見直している。	○	○	○	○	○

戻る　　次へ

一時保存

■ S-F-00「合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった」を選択した場合

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

S-F-00 で「合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった」を選んだ学校はS-F-01・02 にお答えください。複数の事例がある場合は、今年度の事例全体を通じた学校としての状況に最も近い回答を選んでください。回答：1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらともいえない 4 ある程度あてはまる 5 よくあてはまる　※必須

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
S-F-01　本人・保護者との対話を通じ、児童生徒の状況や意向を踏まえて合理的配慮内容を検討している。	○	○	○	○	○
S-F-02　検討・確認した合理的配慮内容、実施場面、関係教職員の役割を共有し、必要に応じて個別の教育支援計画・個別の指導計画等に記録している。	○	○	○	○	○

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

【合理的配慮を支える学校全体の環境・資源】すべての学校が回答してください。今年度、通常の学級における合理的配慮の検討・提供を支える学校全体の環境・資源として、校内で利用できるものを<u>すべて</u>選んでください。「該当する資源がない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。　※必須

- [ ] S-F-04a　相談窓口、検討手順、役割分担
- [ ] S-F-04b　教材、ICT、支援機器等
- [ ] S-F-04c　支援員、通級担当、専門的助言等の人的・専門的資源
- [ ] S-F-04d　教室、施設・設備等の環境
- [ ] S-F-04e　教職員への研修・情報共有
- [ ] S-F-04f　教育委員会、設置者、特別支援学校、外部専門家・関係機関等への相談先
- [ ] S-F-04g　その他

- [ ] S-F-04h　該当する資源がない

戻る　　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

G　自由記述（任意）

S-G-01　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。

通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。

S-G-02　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

戻る　次へ

一時保存

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

管理職（校長・副校長・教頭）にご回答いただくにあたってのお願い

日頃より、国立特別支援教育総合研究所の研究活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本書は、通常の学校票をWebアンケートフォームで回答する方法をまとめたものです。
本調査への参加は任意です。回答しない場合にも、不利益はありません。

記

1　回答をお願いする方

学校から特別支援教育コーディネーター票の回答者とは別の、管理職（校長・副校長・教頭）で回答案内を受けた方にお願いします。回答者の選定方法は、学校長用の【資料2-5】「調査回答者の選定方法について」に示しています。管理職個人の努力や力量を評価する調査ではありません。

2　回答期間・所要時間

回答期間は令和8年10月26日から11月30日までです。所要時間は約30分です。

3　回答前に準備するもの

・学校票の回答用URL又はQRコード
・封筒の宛名部分に記載された学校コード
・御自身で決める任意の４桁数字

4　回答の手順

(1) 学校票のURLを開くか、QRコードを読み取ります。
(2) 学校コード〔必須〕（封筒の宛名右上部分に記載）を入力します。
　学校コードは、調査書類をお送りした封筒の宛名ラベル右上に、「SC」に続けて記載されている半角英数字5文字です（例：S0001、C0001）。入力する際は、「SC」や括弧・コロンを含めず、5文字のコードのみを入力してください。同じ学校で回答する場合は、学校票・コーディネーター票・担任票のいずれも、同じ学校コードを使用します。封筒がお手元にない場合は、校内で調査書類を取りまとめている方にご確認ください。
　　【例】宛名ラベルの表示（SC：C0001）の場合、入力する学校コード：C0001　となります。
　　※小学校はSから始まる５文字、中学校はCから始まる５文字となります。
(3) 説明を読み、回答へ協力する場合は「協力し、学校票に回答する」を選びます。
(4) 質問に回答し、内容を確認して送信します。

5　回答時のお願い
・学校として協力している場合でも、御本人の回答は任意です。
・学校の状況について管理職（校長・副校長・教頭）の方が回答してください。
・自由記述以外の項目は、必須回答となっておりますので、回答しないと先に進めません。
・回答中に時間の確保が難しくなった場合や負担を感じた場合は、途中で回答をやめることができます。
・自由記述には、学校名、氏名など、個人や学校が分かる情報を書かないでください。
・学校名と学校コードの対応表は、回答データとは別に保管します。

6　回答後に参加を取りやめる場合
令和8年12月18日（金）までに撤回用Webフォームから申し出てください。該当する学校票だけを分析対象から除外します。

撤回用Webフォーム：https://forms.cloud.microsoft/r/gFQ9tCsK2s

【お問合せ先】
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
発達障害教育推進センター　総括研究員　横尾　俊（研究副代表者）
〒239-8585　神奈川県横須賀市野比5-1-1
電話　046-839-6866（直通）
電子メール　v-regular_inquiry@nise.go.jp

このアンケートは途中回答保存機能がございます。
以下の再開用URLと記載のある右側のURLをメモ帳にコピー＆ペーストして保管して下さい。
途中回答保存期間は、**１週間**（１６８時間）です。

※下の図はイメージです。

通常の学級における個に応じた
指導・支援に関する全国調査
（学校）

ご回答いただいたデータを一時保存しました。

ご注意ください

・回答を再開する場合は、下記の再開URLにアクセスしてください。
※再開URLがわからなくなった場合、保存したデータからの再開はできません。
再開URLはメールで送信するかメモ帳などにコピーし、必ずお控えください。
※ログインページがある場合は、ログイン画面からも再開できます。

・回答の一時保存期限を過ぎると、回答内容が消去されます。

再開用URL	https://www14.webcas.net/form/pub/sei37/gakko2026?rid=DVQa%2B5PJDjjB%2Fltvna7ylN4Or7k52AJ27IHOE0qzNhw%3D
回答の一時保存期限	**2026年10月15日 17時14分**

戻る

学校票　協力同意

封筒ラベルに記載のある５桁の学校コードを半角英数字５文字で入力してください。	S0000
本調査に協力し、学校票に回答しますか。	協力し、学校票に回答する

学校票

任意の４桁の番号を入れて下さい。	0008

【調査の目的】

本調査は、通常の学級における個に応じた指導・支援の状況を把握し、学校での実践や校内支援体制づくりに役立つ知見として整理することを目的としています。
具体的には、学級で見られる児童生徒の学びの状態、担任が行っている指導・支援、校内での相談・情報共有、学校としての方針や支援体制等について把握します。
特に、以下の観点に着目して関連を整理します。

①　児童生徒の学びの状態と日常の指導・支援
②　担任の指導・支援と校内での相談・情報共有
③　学校としての方針・支援体制と、特別支援教育コーディネーターによる相談・調整や担任の受け止め

また、担任、特別支援教育コーディネーター、管理職等の異なる立場から同じ学校の支援の状況を把握するため、学校票・コーディネーター票・担任票の３種類の調査票を用います。１校当たり、学校票１名、コーディネーター票１名、担任票２名の計４名にご回答いただき、学校としての方針や支援体制、校内での相談・調整、日常の指導・支援がどのように関係しているかを検討します。
個々の学校や教員を順位づけたり判定したりするものではありません。回答は研究目的に限って使用し、個人や学校が特定される形で公表しません。

この調査に正解・不正解はありません。自由記述以外の項目は、すべて御回答いただかないと送信できません。回答者ご自身が把握している範囲で、今年度の状況に最も近い回答を選んでください。

【回答方法】

各設問に示す選択肢に沿ってご回答ください。

A　学校の状況について

回答者ご自身の立場と経験についてお答えください。

S-A-01　回答者のお立場	校長
S-A-01a　現在の校長がこれまでに経験した特別支援教育に関する担当（校長本人に確認してお答えください。複数回答可）	特別支援学校での勤務,通級による指導の担当
S-A-01b　上記の担当経験の通算年数（S-A-01aで担当経験がある場合。同じ年度に複数の担当を経験しても1年として数える）	5年以内
S-A-02　学校種	小学校
S-A-03　学校規模（児童生徒数）	100人未満
S-A-04　通常の学級数	5学級以下
S-A-05　特別支援学級の設置状況	設置あり
S-A-06　通級指導教室の設置状況（東京都の特別支援教室を含む）	自校に設置あり
S-A-07　自校の通常の学級に在籍する児童生徒の通級による指導の利用状況	自校通級のみ
S-A-08　学校票回答者と特別支援教育コーディネーター票回答者は同一人物ですか。※選定された方についてお答えください。同一人物の場合は、回答前に校内で選定を調整してください。	同一ではない
S-A-09　今年度、小学校５・６年又は義務教育学校前期課程の該当学年で実施している指導体制（複数回答可）※『該当学年なし』は、他の選択肢と同時に選ばないでください。	学級担任を中心とする体制

B　学校としての方針・校内支援体制

今年度の学校全体としての方針・校内支援体制についてお答えください。

S-B-01　学校として、通常の学級における個に応じた指導・支援に関する方針を共有している。：よくあてはまる
S-B-02　通常の学級での支援を、担任個人だけに任せない体制づくりを進めている。：よくあてはまる
S-B-03　管理職が、通常の学級担任が感じている困難や支援ニーズを把握する機会がある。：よくあてはまる
S-B-04　特別支援教育コーディネーターの役割が校内で共有されている。：よくあてはまる
S-B-05　校内委員会等で、通常の学級の支援について継続的に検討している。：よくあてはまる
S-B-06　学年会や教科会等で、支援が必要な児童生徒への関わり方を共有している。：よくあてはまる
S-B-07　校内研修で、通常の学級における支援を扱う機会がある。：よくあてはまる
S-B-08　支援内容を、関係する教職員と共有できるようにしている。：よくあてはまる
S-B-09　必要な場合に、外部専門家や関係機関との連携が実際に行われている。：よくあてはまる
S-B-10　支援の状況を踏まえて、学校として授業や学級経営を支える方策を検討している。：よくあてはまる

C　校内での検討・研修・連携の頻度

今年度、校内での検討・研修・連携を実際に行った頻度についてお答えください。
「必要な場面なし」と、0「必要な場面はあったが実施していない」を区別してください。
1＝年1～数回程度、2＝月1回程度、3＝月2～3回程度、4＝週1回以上です。

S-C-01　校内委員会等で、通常の学級における支援について扱う機会：週１回以上
S-C-02　通常の学級の支援に関する校内研修や情報提供の機会：週１回以上
S-C-03　管理職、コーディネーター、担任等で支援方針を確認する機会：週１回以上
S-C-04　外部専門家、特別支援学校のセンター的機能や関係機関と連携する機会：週１回以上

D 学校として感じる課題

今年度、学校全体として通常の学級を支える際に感じている課題についてお答えください。

S-D-01　通常の学級での支援を担任個人に任せがちになる。：よくあてはまる
S-D-02　支援が必要な児童生徒に関する情報を、関係する教職員で共有することが難しい。：よくあてはまる
S-D-03　校内で相談や検討を行う時間を確保することが難しい。：よくあてはまる
S-D-04　学校規模や指導体制など、本校の条件に応じた支援体制を整えることが難しい。：よくあてはまる
S-D-05　専門家や関係機関との連携から得た助言や情報を、日常の実践に生かすことが難しい。：よくあてはまる
S-D-06　通常の学級の担任を支える研修や情報を十分に用意することが難しい。：よくあてはまる

E　今後必要だと考える支援・情報

今年度の学校全体の状況を踏まえ、今後必要だと考える支援・情報をすべて選んでください。「現時点では特にない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。	通常の学級での支援に関する研修資料,管理職向けの体制づくりに関する情報

■ S-F-00「合理的配慮を検討し、提供した事例があった」を選択した場合

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

以下は、合理的配慮に関する周辺情報を確認するもので、法令上の対応の適否や、学校の取組が十分かどうかを判断するものではありません。また、合理的配慮全体又は基礎的環境整備全体を網羅的に測定するものではありません。
合理的配慮は、個別の状況に応じて検討される変更・調整です。個別の合理的配慮の検討・提供過程と、それを支える学校全体の環境・資源を区別してお答えください。

S-F-00　今年度、通常の学級に在籍する児童生徒について、本人・保護者からの相談・申出又は学校からの提案を踏まえ、合理的配慮を検討した事例についてお答えください。	合理的配慮を検討し、提供した事例があった

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

S-F-00 で「合理的配慮を検討し、提供した事例があった」を選んだ学校は S-F-01・02・03 にお答えください。複数の事例がある場合は、今年度の事例全体を通じた学校としての状況に最も近い回答を選んでください。回答：1 まったくあてはまらない　2 あまりあてはまらない　3 どちらともいえない　4 ある程度あてはまる　5 よくあてはまる

S-F-01　本人・保護者との対話を通じ、児童生徒の状況や意向を踏まえて合理的配慮内容を検討している。：よくあてはまる
S-F-02　検討・確認した合理的配慮内容、実施場面、関係教職員の役割を共有し、必要に応じて個別の教育支援計画・個別の指導計画等に記録している。：よくあてはまる
S-F-03　合理的配慮について、児童生徒の状況や意向を踏まえて適宜見直している。：よくあてはまる

【合理的配慮を支える学校全体の環境・資源】すべての学校が回答してください。今年度、通常の学級における合理的配慮の検討・提供を支える学校全体の環境・資源として、校内で利用できるものを<u>すべて</u>選んでください。「該当する資源がない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。	S-F-04a　相談窓口、検討手順、役割分担,S-F-04b　教材、ICT、支援機器等

G　自由記述（任意）

S-G-01　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。

test

S-G-02　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

test

戻る　　登録

■ S-F-00「合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった」を選択した場合

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

以下は、合理的配慮に関する周辺情報を確認するもので、法令上の対応の適否や、学校の取組が十分かどうかを判断するものではありません。また、合理的配慮全体又は基礎的環境整備全体を網羅的に測定するものではありません。
合理的配慮は、個別の状況に応じて検討される変更・調整です。個別の合理的配慮の検討・提供過程と、それを支える学校全体の環境・資源を区別してお答えください。

S-F-00　今年度、通常の学級に在籍する児童生徒について、本人・保護者からの相談・申出又は学校からの提案を踏まえ、合理的配慮を検討した事例についてお答えください。	合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

S-F-00 で「合理的配慮を検討中、または検討したが、提供には至っていない事例のみだった」を選んだ学校はS-F-01・02 にお答えください。複数の事例がある場合は、今年度の事例全体を通じた学校としての状況に最も近い回答を選んでください。回答：1 まったくあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 どちらともいえない 4 ある程度あてはまる 5 よくあてはまる

S-F-01　本人・保護者との対話を通じ、児童生徒の状況や意向を踏まえて合理的配慮内容を検討している。：よくあてはまる
S-F-02　検討・確認した合理的配慮内容、実施場面、関係教職員の役割を共有し、必要に応じて個別の教育支援計画・個別の指導計画等に記録している。：よくあてはまる

【合理的配慮を支える学校全体の環境・資源】すべての学校が回答してください。今年度、通常の学級における合理的配慮の検討・提供を支える学校全体の環境・資源として、校内で利用できるものを<u>すべて</u>選んでください。「該当する資源がない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。	S-F-04a　相談窓口、検討手順、役割分担,S-F-04b　教材、ICT、支援機器等

G　自由記述（任意）

S-G-01　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。

test

S-G-02　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

test

戻る　　登録

■ S-F-00「合理的配慮を検討した事例はなかった」を選択した場合

F　合理的配慮の検討・提供と、それを支える環境・資源（周辺情報）

以下は、合理的配慮に関する周辺情報を確認するもので、法令上の対応の適否や、学校の取組が十分かどうかを判断するものではありません。また、合理的配慮全体又は基礎的環境整備全体を網羅的に測定するものではありません。
合理的配慮は、個別の状況に応じて検討される変更・調整です。個別の合理的配慮の検討・提供過程と、それを支える学校全体の環境・資源を区別してお答えください。

S-F-00　今年度、通常の学級に在籍する児童生徒について、本人・保護者からの相談・申出又は学校からの提案を踏まえ、合理的配慮を検討した事例についてお答えください。	合理的配慮を検討した事例はなかった
【合理的配慮を支える学校全体の環境・資源】すべての学校が回答してください。今年度、通常の学級における合理的配慮の検討・提供を支える学校全体の環境・資源として、校内で利用できるものを<u>すべて</u>選んでください。「該当する資源がない」は、他の選択肢と同時に選ばないでください。	S-F-04a　相談窓口、検討手順、役割分担,S-F-04b　教材、ICT、支援機器等

G　自由記述（任意）

S-G-01　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、貴校で必要だと考える取組や体制があれば記入してください。

test

S-G-02　通常の学級における個に応じた指導・支援を進めるうえで、教育委員会や関係機関等から貴校に対して必要だと考える支援があれば記入してください。

test

戻る　　登録

通常の学級における個に応じた指導・支援に関する全国調査
（学校）

調査へのご協力、ありがとうございました。
調査結果速報の受け取りを希望される方は、
以下のリンクから「調査結果速報の送付先情報入力フォーム」にお進みいただき、必須事項をご入力ください。

調査結果速報の送付先を登録する
https://forms.cloud.microsoft/r/jVRxmmyUQF

送付先の登録は任意です。登録されない場合も、調査への回答は完了しています。
ご登録いただいたメールアドレスは、調査結果速報の送付後、直ちに削除・廃棄する予定です。